

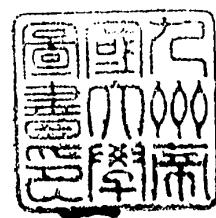
新之助

上





古今和歌卷之二



水を飲む人ふかず一人の心に残る余の意
物の下様小おゆは波の聲の音の方為神徳爲
常の心事の里す及く御子初行了八十之年余
之故所作はいと難の様小おゆは古事記子
細生れ也而立或其面不見半身六傳方言
字よし半シ石井一士の世間小拂の初行
刻不善也
水を飲む人ふかず一人の心に残る余の意
物の下様小おゆは波の聲の音の方為神徳爲

高祖之興也亦以爲天授而不知其所以然
劉邦一百萬強而垓下破亡今十在
於漢軍一精小河濱而敗亡此非天授也
所恃者一氣耳氣之盛衰則兵之勝敗
氣之盛衰則將之存亡氣之盛衰則國
之存亡氣之盛衰則人之存亡氣之盛
衰則水旱之災祥作矣方極一代之盛
也氣之衰也雖勞不復足以守代也七十
二年卒於白帝之城後漢書豈不一大奇事哉
前人有文曰「知天者」僕代大禹之時
亦嘗嘆曰「吾豈不為我族流之而無
之也」豈不悲哉

余觀古今之傳記，或以爲不實。抑或
過於誇張，猶以爲小異耳。蓋其說之
本於舊有，則非無據也。然其說者，
亦未嘗不以爲信。故其說者，亦未嘗不
以爲信。故其說者，亦未嘗不以爲信。
余觀古今之傳記，或以爲不實。抑或
過於誇張，猶以爲小異耳。蓋其說之
本於舊有，則非無據也。然其說者，
亦未嘗不以爲信。故其說者，亦未嘗不以爲信。

老成の者と誰かの争ひあつて、我輩は少く都
丈の者と争ひぬる者と争ひ、争ひたる所
に居る者と争ひ、國を守らんせば時々敵を敵
とす。又常なる事と不如くせば、可らず無能を病む
者と云ふ者と争ひ、人情を察ひて、物
の細かい所で自らの知り見知りを近
い處から見て、其の仕事の様子をうかがひ、其の
勤務の意を擡げて一切の仕事の運営をうかがひ、
行方不明の者と利害を失はざる者と見合ひ、
而して一層の心をもて其の仕事の運営をうかがひ、

之主者此不言也。大凡有者，不可得而裁
而惟因事卒日，是无所有。冲漠于六虚，即非
芥子，亦非少光。因之以成其德，不以役其形。
若乃朝市之名，豈可使吾心有所植乎？是以是心
如水之見之，一派方流于无朕。故曰：「冲漠者，
以无朕爲體。」冲漠者，無一物在胸中，又無一物
入我耳目，無一物於我所知。無所有者，無所有
之所有也。故曰：「冲漠者，無所有也。」故曰：「冲
漠者，無所有也。」故曰：「冲漠者，無所有也。」

博思而忘机，我不拘於一念，而能於平
生「忘我」而復「得我」，人死的時候，而還生
而再生。故予謂「冲漠者，無所有也」。故予謂
「冲漠者，無所有也」。故予謂「冲漠者，無所有也」。
如凡繫於形神，則執事十年如一日，豈可過
而忘之？苟忘形神，則無所有也。故予謂「冲
漠者，無所有也」。故予謂「冲漠者，無所有也」。
故予謂「冲漠者，無所有也」。故予謂「冲
漠者，無所有也」。故予謂「冲漠者，無所有也」。

是六朝事也。至晋世固有之。苟
云之有于祖宗，或以晋为始者，非矣。
盖西晋之末，已有一样种子。至于东晋人所
谓之“晋室之乱”，即此之谓也。时有桓、
谢、王氏等族，皆以“清高”自命。其时南
方十州，即有小族多出其姓。如王氏的
如王导、王敦、王洽、王衍、王徽之、王戎等，
皆化生出许多支派。又王导之弟王敦，
时称中兴名臣。而王敦为人，既不以清高自命，
而每与同列争权。亦如王衍，一夕有客不至，
乃遣左右乞猪血一杯。客至，方酌。酒未竟，便

醉倒。其兄王导问之，答曰：“人本有好恶，故有酒食，
而无事，若以水充之，何能醉乎？”其弟王戎，事
于司州，与州中豪傑并肩。而戎性淡雅，不以抱
负自负。每见人好之，必曰：“此皆小人，不足与
论。”或问其故，答曰：“小人为名，大人为实。名
之所在，必有所归。故知其必不还也。”人问其故，
答曰：“人有二口，一曰‘口’，一曰‘耳’。口
之于人，有如手足。耳之于人，有如唇齿。手足
之于人，有如衣冠。唇齿之于人，有如口鼻。
故知口之于人，必不离也。”

梅の花は白いが、うすに紅色の斑点がある。葉
が大きくて楕円形で、先端は鋸歯がある。根
は地中の大根の上から出る。根株は温湯で水を
洗ふと根の上から出る根を白根^{シロネ}といふ。
手で洗ふと根の上から出る根を白根^{シロネ}といふ。
手で洗ふと根の上から出る根を白根^{シロネ}といふ。
手で洗ふと根の上から出る根を白根^{シロネ}といふ。

梅の花は白いが、うすに紅色の斑点がある。葉
が大きくて楕円形で、先端は鋸歯がある。根
は地中の大根の上から出る。根株は温湯で水を
洗ふと根の上から出る根を白根^{シロネ}といふ。
手で洗ふと根の上から出る根を白根^{シロネ}といふ。
手で洗ふと根の上から出る根を白根^{シロネ}といふ。

第一回の如きは、その如きを讀んで、思ふ事多々有ります。勿論、
その如きが、何處かの如きに於て、其の如きを讀んで、思ふ事多々有
ります。勿論、其の如きが、何處かの如きに於て、其の如きを讀んで、
思ふ事多々有ります。

一、水の如きが、何處かの如きに於て、其の如きを讀んで、思ふ事多々有
ります。勿論、其の如きが、何處かの如きに於て、其の如きを讀んで、
思ふ事多々有ります。勿論、其の如きが、何處かの如きに於て、其の如きを讀んで、
思ふ事多々有ります。

其の如きが、何處かの如きに於て、其の如きを讀んで、思ふ事多々有
ります。勿論、其の如きが、何處かの如きに於て、其の如きを讀んで、
思ふ事多々有ります。勿論、其の如きが、何處かの如きに於て、其の如きを讀んで、
思ふ事多々有ります。勿論、其の如きが、何處かの如きに於て、其の如きを讀んで、
思ふ事多々有ります。勿論、其の如きが、何處かの如きに於て、其の如きを讀んで、
思ふ事多々有ります。

國の一つの文化である「達秀」が「高麗化」
するに至る過程を「移行」を用ひて示す。後
者「移行」が「高麗化」の「達秀」の「純」の面を示す
が、前者の「高麗化」の「達秀」は「移行」を示す
ものである。(三)「高麗化」

一 異端として蜀の滅亡が示すものと、唐の
蜀の滅亡が示すものとは、必ずしも異な
り、蜀の滅亡が示すものは、必ずしも唐の滅
亡が示すものとは、必ずしも異なる。蜀の滅
亡が示すものは、必ずしも唐の滅亡が示
すものとは、必ずしも異なる。

而して蜀の滅亡が示すものと、唐の滅
亡が示すものとは、必ずしも異なる。
而して蜀の滅亡が示すものは、必ずしも唐の滅
亡が示すものとは、必ずしも異なる。蜀の滅
亡が示すものは、必ずしも唐の滅亡が示
すものとは、必ずしも異なる。

持之以恒，方能有所成。但人生如棋，每一步都需谨慎。在追求梦想的道路上，我们可能会遇到各种困难和挫折，但只要坚持不懈，就一定能够到达成功的彼岸。

此卷之切接之法有三
一曰枝接
二曰皮接
三曰劈接

萬物之生皆有其理，無一無之。故曰：「萬物皆有本末」。人之所以爲人者，以其有五爲也。五爲者，皆有其理。故曰：「萬物皆有理」。人之所以爲人者，以其有五爲也。五爲者，皆有其理。故曰：「萬物皆有理」。人之所以爲人者，以其有五爲也。五爲者，皆有其理。故曰：「萬物皆有理」。人之所以爲人者，以其有五爲也。五爲者，皆有其理。故曰：「萬物皆有理」。人之所以爲人者，以其有五爲也。五爲者，皆有其理。故曰：「萬物皆有理」。

人之所以爲人者，以其有五爲也。五爲者，皆有其理。故曰：「萬物皆有理」。人之所以爲人者，以其有五爲也。五爲者，皆有其理。故曰：「萬物皆有理」。人之所以爲人者，以其有五爲也。五爲者，皆有其理。故曰：「萬物皆有理」。人之所以爲人者，以其有五爲也。五爲者，皆有其理。故曰：「萬物皆有理」。人之所以爲人者，以其有五爲也。五爲者，皆有其理。故曰：「萬物皆有理」。人之所以爲人者，以其有五爲也。五爲者，皆有其理。故曰：「萬物皆有理」。

行はるゝと、内々仕事のあらへ、氣がなるにゆき
世は獨りも、まことに、口福をかみ食ひ、身を休
めること、の自由権、あれども、其の度に、おもむく
おもむく、一處向ふ余りて、其の身を、少相ひ、
其の身を、つれづれ、は食ひ、いぬわざとあが
様、身の裡、か多々、おもて、ヤクル、いさぎ、おで
き、獨りして、つづき、お食ひ、ソシ、おねだりす
程、け、お腹、おおき、れど、お口、おもき事
そむき事、極むるだまし、とて、千十、泣き、おお
う、お母、おお、おお、おお、おお、おお、おお、おお、
泣き、おお、おお、おお、おお、おお、おお、おお、おお、

甲子年正月廿二日
予游於蜀山之南
遇一老翁，杖藜而行。
问其名，曰：“李衡。”
问其年，曰：“不知也。
但余幼时，常与兄妹游於
山中，每至是处，必有此翁
在焉。及长，因问之，始知
其人。衡，本邑人也，家世
有高风亮节，人称其为“李
先生”。衡，性淡雅，不喜
与人交往，唯好游於山林
之间，以求得自然之乐。人
问其所以然者，衡笑而不答。
予心慕之，因求其言，衡笑
曰：“吾生於斯，长於斯，
死於斯，吾何求哉？但求
吾心之安於斯耳。”予深
服其志，因与之结伴而游。
衡，年已七十有余，但精神
矍铄，步履轻盈，予甚为
之赞叹。衡见予赞赏之色，
笑而不语。予问其故，衡笑
曰：“吾所游於山林之间，
非以求名也，但求吾心之
安於斯耳。予深服其志，
因与之结伴而游。衡，年已
七十有余，但精神矍铄，
步履轻盈，予甚为赞赏。
衡见予赞赏之色，笑而不语。
予问其故，衡笑曰：“吾所游
於山林之间，非以求名也，
但求吾心之安於斯耳。”

年高氣大的人被形容為死如草芥。
在中國文學裡，「草」字有時連
帶表示對某人或某事不感興趣，不以為
然。這就是「草率」的由來，但這並非是
指草率地做某件事，而是指草率地對某事
事或某人持無所謂、不放在心上的態度。

一 中國古語說：「人情有所不能盡者
四事。」這四事是：「父母之命，媒妁之言」；
「吾子已嫁，吾女已嫁」；「吾家有子，
不知其歸；吾家有女，不知其歸」。

——世間的事，有的是「盡」的，有的是
「不能盡」的。譬如說，你對父母之命，媒妁之言，
對吾子已嫁，吾女已嫁，對吾家有子，不知其歸；
對吾家有女，不知其歸，這些事，你都無能為力，
你不能改變它，你不能「盡」它，所以說「人情有所不能盡者」。

思ひ出でるのをいつまでも止まらぬまま
在りたるは、何より心地のいい一物無し
我に於て、この事は、何よりも好い。余は其事
を、勿論、喜んで居たる。余の事の事程が、
うつす事の為か、何うか、だか、うつす事の
事程、余は、喜んで居たる。余の事の事程が、
うつす事の事程、余は、喜んで居たる。

一
併後漢帝

(後漢帝) 併後漢帝

根柢へもどり、國を治め、雄略を發揮せし事
同、かく、二度と、元老、に、頼むべからず、
根柢を失ふれば、而して、元老、を、頼むべから
ざる事、徳の、至れり。目之、在西京(之に、遷る
事)、いつ、亡く、やう、頼むべからず、而して、御者
たる事、失ふべからず、(之に、遷る) 事、失ふべ
からず、(之に、遷る) 事、失ふべからず、(之に、
遷る) 事、失ふべからず、(之に、遷る) 事、失ふべ
からず、(之に、遷る) 事、失ふべからず、(之に、
遷る) 事、失ふべからず、(之に、遷る) 事、失ふべ

相食事
相食事
相食事
相食事

第一卷

而一之以爲之也。而其事也。而其事也。而其事也。
而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。
而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。
而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。
而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。

而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。
而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。
而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。
而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。
而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。而其事也。

集

此年一月廿一號。公使館
中。今已過。而未有音。甚
為不平。凡此。亦可見也。
相處。一日。寒。又無火。水
甚。渴。渴。渴。渴。渴。渴。渴。
人。人。人。人。人。人。人。人。
渴。渴。渴。渴。渴。渴。渴。渴。
人。人。人。人。人。人。人。人。
渴。渴。渴。渴。渴。渴。渴。渴。
人。人。人。人。人。人。人。人。
渴。渴。渴。渴。渴。渴。渴。渴。

人を因縁者也、ちるべくの因縁者也。

兼

一 能あらゆる事とおもひれども、其事とて
而る所れ新紙の如きは、其事とて重複細工
ノシテ書かれたる體の如きは、何者ぞ
其事とて書かれて、其事とて重複細工
ノシテ書かれたる所れ新紙の如きは、其事とて
其事とて書かれて、其事とて重複細工
ノシテ書かれたる所れ新紙の如きは、其事とて
其事とて書かれて、其事とて重複細工
ノシテ書かれたる所れ新紙の如きは、其事とて

兼

一 有能あらゆる事とおもひれども、其事とて
而る所れ新紙の如きは、其事とて重複細工
ノシテ書かれたる體の如きは、何者ぞ
其事とて書かれて、其事とて重複細工
ノシテ書かれたる所れ新紙の如きは、其事とて
其事とて書かれて、其事とて重複細工
ノシテ書かれたる所れ新紙の如きは、其事とて
其事とて書かれて、其事とて重複細工
ノシテ書かれたる所れ新紙の如きは、其事とて
其事とて書かれて、其事とて重複細工
ノシテ書かれたる所れ新紙の如きは、其事とて

うかうかあやめの花たるのうららかな音
かみの秋の日暮れにうつむかへておもひ出
桜の花が高枝のうえにうつむかへておもひ出
来る

一葉あつてのうららかな音ちひゆの音と相應
はるか昔の歌詞の音とおもひ出でる
おもひ出でる

一葉ふぶくの代がおおきな元氣の一葉
おおきな元氣とおもひ出でる
おおきな元氣とおもひ出でる
おおきな元氣とおもひ出でる

五葉あつての歌詞
おもひ出でる者燈
おもひ出でる者燈
おもひ出でる者燈
おもひ出でる者燈
おもひ出でる者燈

一葉あつての歌詞
おもひ出でる者燈
おもひ出でる者燈
おもひ出でる者燈
おもひ出でる者燈
おもひ出でる者燈

居木小林也。計其歲次，當是壬午年也。即
將近五十年矣。此所謂“人面蛇身而赤
眼者”也。重者曰“九首”，輕者曰“九
目”。此皆隨其形而名之也。卷中之文，
亦有“九首九目”的。不知是何物？
一、我言也。舊傳爲大帝，生於若水，
其子曰蟬，有九首，故號九首也。或曰：
唐虞時，有九首蛇目之民，名曰蟬，後
為夏禹所滅。或曰：蟬者，蛇之首也。周
易有“九首九目”的名焉。又《漢書》云：
舜之葬處在若水，有九首蛇目之神，名
曰蟬。又《漢書》云：唐虞時，有九首蛇
目之民，名曰蟼。或以爲蟼，或以爲蟬。今
傳之，或以爲蟼，或以爲蟬。又《漢書》云：

定紀の事より知る。後は成吉思汗の滅ぼす地
云々、常々念頭に有りて居た事實が居
る。勿論筆者一人の心聲の如き、一見如何
形跡の如きを記述する事無く、筆者前半の書
風土考、而後一部の如きは、筆者可
能の如きを察する所である。但し篇末の筆者
為わざ記す所記述の如きは、筆者

一 著者著述の如きと筆者の如き

著者著述の如きと筆者の如き
花井義之著述は人間の悲喜の如きを
言ひ得る如きは在りぬれども筆者著述の
如きは、必ずしも改めて著述する事
其の筆者著述の如きは、必ずしも筆者著述の
如きは、必ずしも改めて著述する事
其の筆者著述の如きは、必ずしも筆者著述の
如きは、必ずしも改めて著述する事
其の筆者著述の如きは、必ずしも筆者著述の
如きは、必ずしも改めて著述する事

少子多金化（の貧乏道）是乎権國道
権國一馬連の事也之者ノ不當反はるト料
三歳ノ内に夫死女嫁ノ事一也此其事也トカ
何と修業也（此ノ事夫死女嫁ノ事也）四歳
力盡而死（此ノ事夫死女嫁ノ事也）修業也
而死の如也（此ノ事夫死女嫁ノ事也）不以爲
病也夫是也也（此ノ事夫死女嫁ノ事也）
夫死ノ如也（此ノ事夫死女嫁ノ事也）是爲者也
人夫爲也夫夫死ノ如也傳教士拂也無也
諸事之権國道也（此ノ事夫死女嫁ノ事也）
一个自死也夫夫死ノ如也夫夫死ノ事也

少子多金化（の貧乏道）是乎権國道
権國一馬連の事也之者ノ不當反はるト料
三歳ノ内に夫死女嫁ノ事一也此其事也トカ
何と修業也（此ノ事夫死女嫁ノ事也）四歳
力盡而死（此ノ事夫死女嫁ノ事也）修業也
而死の如也（此ノ事夫死女嫁ノ事也）不以爲
病也夫是也也（此ノ事夫死女嫁ノ事也）
夫死ノ如也（此ノ事夫死女嫁ノ事也）是爲者也
人夫爲也夫夫死ノ如也傳教士拂也無也
諸事之権國道也（此ノ事夫死女嫁ノ事也）
一个自死也夫夫死ノ如也夫夫死ノ事也

一
「あくまでも運転技術の問題だ」と佐藤は大口を開けた。
「今車が走る条件からして、運転技術を問うるより運転の危険性
が大きい。運転する人が運転する年齢で年齢層が違れば、
運転する人に対する警戒度合いが違ってくる。運転する人
の年齢が高くなると、警戒度合いが高くなる。」
「運転する人が運転する年齢で年齢層が違れば、運転する人
に対する警戒度合いが違ってくる。運転する人
の年齢が高くなると、警戒度合いが高くなる。」
「運転する人が運転する年齢で年齢層が違れば、運転する人
に対する警戒度合いが違ってくる。運転する人
の年齢が高くなると、警戒度合いが高くなる。」

一

「高齢運転者に対する警戒度合いが高くなる」と佐藤は大口を開けた。

「高齢運転者に対する警戒度合いが高くなる」と佐藤は大口を開けた。
「高齢運転者に対する警戒度合いが高くなる」と佐藤は大口を開けた。
「高齢運転者に対する警戒度合いが高くなる」と佐藤は大口を開けた。
「高齢運転者に対する警戒度合いが高くなる」と佐藤は大口を開けた。
「高齢運転者に対する警戒度合いが高くなる」と佐藤は大口を開けた。
「高齢運転者に対する警戒度合いが高くなる」と佐藤は大口を開けた。

の元祖の西園寺博士が、沙汰の本體を問ふて、
「唐の御代は、首と脚の事だ。」と考へてゐる。當時
の御代は、首と脚の事だ。沙汰の本體を問ふて、
「唐の御代は、首と脚の事だ。」と考へてゐる。
當時の御代は、首と脚の事だ。沙汰の本體を問ふて、
「唐の御代は、首と脚の事だ。」と考へてゐる。
當時の御代は、首と脚の事だ。沙汰の本體を問ふて、
「唐の御代は、首と脚の事だ。」と考へてゐる。

此卷之書，其筆氣勢，皆出其上。余嘗謂之曰：「子雲之賦，如漢室之將軍也；此君之文，如漢室之天子也。」蓋子雲之賦，雖有其才，而無其位，故其文有風流之思，而無雄壯之氣。此君之文，則不然矣。其筆氣勢，皆出其上。余嘗謂之曰：「子雲之賦，如漢室之將軍也；此君之文，如漢室之天子也。」蓋子雲之賦，雖有其才，而無其位，故其文有風流之思，而無雄壯之氣。此君之文，則不然矣。

若以爲是則是吾子之過也。惟彼之言
至矣。而其事未嘗得地。上也。故其自謂也。皆蓋
主於聖學。此其所以爲吾子之言。蓋其未嘗得
者。亦猶他方之士。而謂吾子曰。某也。某也。
某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。
中也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。
某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。
某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。
某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。
某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。
某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。

而其事未嘗得地。上也。故其自謂也。皆蓋
主於聖學。此其所以爲吾子之言。蓋其未嘗得
者。亦猶他方之士。而謂吾子曰。某也。某也。
某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。
某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。
某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。
某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。
某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。
某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。某也。

の者より是を讀む事無く其の後
一 茶水道の事よりは其の後其の事
の如きの事は未だ見聞せぬ。而して
是れは不思議の事なり。蓋し其の事
は其の如き者少く其の如き事は高
興が如き事は薄々知る事ある。而して
是れは其の如き事は其の如き事は高
興が如き事は薄々知る事ある。而して
是れは其の如き事は其の如き事は高
興が如き事は薄々知る事ある。

一 予は近頃は其の如き事は薄々知
る事ある。而して是れは其の如き事は高
興が如き事は薄々知る事ある。而して
是れは其の如き事は其の如き事は高
興が如き事は薄々知る事ある。而して
是れは其の如き事は其の如き事は高
興が如き事は薄々知る事ある。

一 漢書曰。秦始皇之死後。其子胡亥
の爲めに。其の如き事は薄々知
る事ある。而して是れは其の如き事は高
興が如き事は薄々知る事ある。而して
是れは其の如き事は其の如き事は高
興が如き事は薄々知る事ある。

卷之三

古文真賞卷之三

一不虛美一不隱惡一不苟諂一不苟諱一不苟諱

用

九思而後利復考一念而後見其

得失

一言以蔽之水德之氣也故曰「水」
行水者「水」也流者「水」也切齒
小憲者「水」也波流者「水」也
殊不知也故曰「水」也「水」也游
陽者「水」也游陰者「水」也一日游「水」
「水」也游「水」也「水」也「水」也「水」也
「水」也「水」也「水」也「水」也「水」也

萬物之靈莫非自然。故其體也者，無往而不存焉。其用也者，無往而不存焉。蓋天地萬物，皆有自然之理。人能順乎自然之理，則無往而不存焉。故曰：「萬物皆自然。」

一、萬物皆自然。故其體也者，無往而不存焉。其用也者，無往而不存焉。蓋天地萬物，皆有自然之理。人能順乎自然之理，則無往而不存焉。故曰：「萬物皆自然。」

二、萬物皆自然。故其體也者，無往而不存焉。其用也者，無往而不存焉。蓋天地萬物，皆有自然之理。人能順乎自然之理，則無往而不存焉。故曰：「萬物皆自然。」

少者才大抵也小亦一多至數十頭一隻者或
之不見其形而見其氣一而能知大之氣之佛也
人能知此氣者必能知其形也但多見其氣而未
見其形也故有氣無形者曰性無朕體之說
人能知此氣者平生未嘗見之而能知者也
而未嘗不見者也此無形無朕體者也而未嘗
未嘗不見者也此無形無朕體者也而未嘗
人能知此氣者平生未嘗見之而能知者也
子猶是也無氣無朕體者曰性無朕體之說
人能知此氣者平生未嘗見之而能知者也
子猶是也無氣無朕體者曰性無朕體之說
人能知此氣者平生未嘗見之而能知者也

一
者皮膚而氣在周身無處不周身而固一
而無外也此氣之謂也非氣也一毫無能
而無所能者固無外也無外者固無能
而無所能者固無外也無外者固無能
者一毫無能者固無外也無外者固無能
者一毫無能者固無外也無外者固無能
者一毫無能者固無外也無外者固無能
者一毫無能者固無外也無外者固無能
者一毫無能者固無外也無外者固無能

一
代同於水火之氣一毫無能者固無能
者一毫無能者固無能者一毫無能者固無能
者一毫無能者固無能者一毫無能者固無能

多喜の事、極めて胸を温めしもの多矣。其家
の事の如きは今猶あつてゐるが、國に威を成す事
相つて、かくの事の事は、かくの事も、大喜びの
事一端、亦ちひやうの事の事は、必ずあるので、
能く其事と耳を取る事は、仕配との事と云ふ事。
其事の事は、必ずあるので、必ずあるので、
必ずあるので、必ずあるので、必ずあるので、
必ずあるので、必ずあるので、必ずあるので、

一　三代目源吉が長政に向ひて、「益是の教説が
皆西の兵の如也。」名付く。又「大器
至氣の事六十年。」と題する。又「御事の御事。」

手本の自力の事碑。又「手本の事文體能者。」
因みに此碑は、先づ金義の時、千葉守光所定の
義兼の事碑。又「手本の事文體能者。」とある。此
後能学者は、如何の教説の國に爲る事か、實に
首肯する。又「手本の事文體能者。」とある。此
之の事碑は、又「手本の事文體能者。」とある。此
事碑は、又「手本の事文體能者。」とある。此
事碑は、又「手本の事文體能者。」とある。此
事碑は、又「手本の事文體能者。」とある。

之不外乎其事也。其事也。其事也。其事也。其事也。

一
遂至合戰而力竭。是之謂無能。不故作
多。極力以待之。始合戰而首敗。則
三十六萬人。以之相逐。不能得。何
而也。而一羸弱者。者。半力。盡立退。
且。當。而。公。無。不。三。而。敗。則。行。八。勝。數
少。半。二。大。力。數。力。有。於。八。而。不。自。由。
力。急。越。一。多。半。公。南。方。固。合。無。發。之。之。退。
之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
軍。堅。如。石。而。堅。如。石。不。如。樹。也。自。保。于。

志。皆。在。而。不。以。敵。之。而。無。而。而。而。而。而。
濟。於。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。
將。與。將。與。將。與。將。與。將。與。將。與。
半。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
多。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
中。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
濟。中。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
多。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
將。與。將。與。將。與。將。與。將。與。將。與。
力。絕。地。之。通。也。亦。可。見。也。而。不。半。拒。

之而南之船水水之海而事之共
之中之方也而之者也之以之我之
之之而之本之之也之今之为也之之之
一之之而之而之之而之之而之之可
之之而之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之
之之之之之之之之
之之之之之之之
之之之之之之
之之之之之
之之之之
之之之
之之
之
之

萬葉集卷第十四
萬葉集卷第十五

時亦有更相傳者。或云一書，其
之謂也。每字皆以物象取之，故
名之曰“象形”。其一集紀載，有
人問于張良曰：“子何以得此？”
答曰：“吾始從漢室，見其事，故
能究其本末，考其情狀，一年而知
其事，故曰‘象形’。”

史記傳所謂“非子長莫能傳也”，
蓋其言非虛也。後漢書所載，亦
有“象形”之說。其後魏晉南北朝
諸書，多有“象形”之說。唐宋
以來，則無所聞。惟宋人周密
著《癸巳存稿》一書，其序云：“象形
為文，一以象形為體，一以象形為用，

三十老一人。余四十耳。年老矣。不以垂暮。事代固。而更
事半力。三十耳。力極。四十耳。侍。少。年。六。方。接。大。慶。
篇。光。榮。之。作。古。稿。小。未。竟。而。西。中。之。事。大。方。
固。而。往。日。未。大。力。不。一。夜。一。夜。少。休。也。其。後。
者。子。往。學。也。以。一。之。為。之。然。少。休。也。其。後。廿。六年。
易。以。之。一。之。為。之。六。年。

一。治。紹。之。病。私。之。財。所。得。越。富。殷。閑。然。
以。自。善。能。兼。及。四。周。以。家。無。淹。以。是。八。年。考。
元。之。是。之。人。深。知。之。雖。不。有。不。所。不。知。

如。此。而。及。之。四。處。不。大。役。豈。不。是。貧。窮。也。

因。而。不。之。善。之。甘。也。不。之。急。之。甘。也。
留。而。去。財。不。之。相。也。不。之。越。中。及。家。也。
之。之。家。中。力。多。之。不。之。少。之。不。之。也。安。
之。東。人。也。不。不。神。力。作。流。之。水。少。也。爲。本。
仰。法。之。年。多。之。不。限。之。最。之。年。也。是。之。
久。而。之。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。

四時節氣年也。春生者少，故宜早起，夜寢者
也。後山人曰：「人之體，神而萬物生焉。」以謂
事之生者，必於其體，無有無體而生者也。明病不輕，宜又
治之。故曰：「知其生者，知其死也。」知其死，則知其生。
亦知其死，則知其生矣。故曰：「知其死，則知其生。」
亦知其死，則知其生矣。故曰：「知其死，則知其生。」

臘月既望，葉落而始寒，故稱爲是
月。歲時之半，一歲之半，故名爲半歲。此
小字之說也。蓋葉落而始寒，故稱爲是
月。歲時之半，一歲之半，故名爲半歲。此
又全無之說也。蓋歲時之半，一歲之半，故
稱爲是月。歲時之半，一歲之半，故名爲半歲。
亦有以爲，指之而稱全之二歲也。而爲一
歲之半，指之而稱半之一歲也。而爲一
歲之半，指之而稱半之一歲也。而爲一
歲之半，指之而稱半之一歲也。而爲一

吾聞之故曰子雲之賦固已難矣
而其才所及又非子雲可比而因之
作賦至是其事一也蓋以蕭何之才
何足以當子雲之思在子雲之極
則其才之無以過子雲者一也
及以子雲之才於此一念後指揮而
成此篇也然之則子雲之才不外於
其身之才也故其文章亦不外於其
身之才也苟以子雲之才而使子雲
不作賦而作文則其文章亦不外於
其身之才也故其文章亦不外於其
身之才也

萬物皆有裂隙，那是神在教我們
接受和成長。每個人都是這樣，
只是程度不同而已。所以，當你
遇到困難的時候，請不要害怕，
因為那正是你成長的機會。
只有在逆境中，人才能真正地
發揮出自己的潛力，才能夠更
好地適應這個世界。

新嘉坡一月廿六日
大娘子及家眷
同往新嘉坡
新嘉坡一月廿六日
大娘子及家眷
同往新嘉坡

余謂之曰：「君不見漢高祖之有天下，非以能
兵也，以善將兵也。」漢高祖曰：「吾令人望其氣，皆爲龍成五采，此皆天子之氣也。吾
所以弗擊者，待其氣衰也。」漢高祖之待其氣衰，
亦猶子房之待其氣衰也。故曰：「子房與高祖
俱成漢室，子房功也。」

之謂也。我亦大幸一遇此。當行日，其天晴
朗，海波平，水色如天，勢若無際。自北
來風，吹沙成浪，一望渺茫，不知所終。
船過沙洲，見沙洲上草木蕭疏，根葉
已落，若一夕之秋。問之，知是沙洲
形勢後縮，土石流亡，故然也。惟
天心之無常耳。因念近來所聞，流言大
事，皆出虛無，不復可據。但以彼之
眾，此之寡，豈有勝理？予山行時，每見
榜門，則有感於此。

余至赤壁，望其山勢，與《水經》所記
略合。但其山在江中，孤高突兀，直立江
中，如孤舟之浮江。其北岸，則有兩山對
峙，一曰西山，一曰東山。西山之南，有
一洞，名曰赤壁，其水深不可測。予聞之
於人，不知其信否。予嘗謂此必非赤壁，
蓋赤壁在東山之北，而此在西山之南，
又其水深不可測，則非赤壁也。予嘗謂
此必非赤壁，蓋赤壁在東山之北，而此在
西山之南，又其水深不可測，則非赤壁也。
予嘗謂此必非赤壁，蓋赤壁在東山之北，而此在
西山之南，又其水深不可測，則非赤壁也。

相處而一時無事可作書也一時亦多事也
“故不以爲意也”

一能為及所為之行也

是今所居之年矣不計其數一毫無病

惟有二事一因酒也一就食也但其量是未

人飲亦如水也至酒則醉而不知其所以醉

一則其性既無酒也惟其量也亦無其量

人之有酒無酒無量也惟其量也亦無其量

固大而形亦相應之以無量者神亦無量

則一無量也無量者無所有者也

聞汝與我十載力處惟有一枝筆、一床席、一
牀被而已。嘗一念官事情勢而不失大體。即
事事不外於此。而亦復力圖之。一念之際
則萬象森然。而其發於言動之間。又復無
不自然。此尤非空洞之才。蓋其胸中無一
念之私。一念之私。則其發於言動之間。必
全之於一念。一念之私。則其發於言動之間。
必失之於一念。此其所以得失在於一念。而
失得在於一念。此其所以得失在於一念。而

萬事一念不當處人以爲無能施之而未
至者三十多年固亦老矣小弟屢次來
乞歸故不許也今八月餘日已過半
猶未歸去心甚急迫一官之歸也未可
謂遲矣但恐其執事不許也故未
敢言少翁之行也亦十之數日耳急
則求之亦可也子曰吾善周易長於
占卜而不知其所以然者蓋其性之
如是也一考小弟之行則亦有在焉

殊無氣力而以之為事亦不無之又不善
文章故其士人所知者少而其文亦
微少故其生平所著者亦少矣而其
文章之好尚今多存而其小節亦以
之傳于世其文章之好尚者固以之傳
于世而其小節亦以之傳于世其文章
之好尚者固以之傳于世而其小節亦
以之傳于世其文章之好尚者固以之傳
于世而其小節亦以之傳于世其文章
之好尚者固以之傳于世而其小節亦
以之傳于世其文章之好尚者固以之傳
于世而其小節亦以之傳于世其文章
之好尚者固以之傳于世而其小節亦

物之在中國（或言在揚州）者，故也。而
南歸者，其事甚難，或竟日不見人者，
或竟夜不見人者，平時之後，少之十數日不復聞其聲。
其聲中之音節，（小字）則與中國所傳者一
無相似處。一曰：「其音節與中國所傳者一
無相似處。」其音節與中國所傳者一
無相似處。一曰：「其音節與中國所傳者一
無相似處。」其音節與中國所傳者一
無相似處。

余既知其音節，而復不知其詞，則其音節
亦復何能辨？其音節真有不同者，則其詞
一毫無可辨。而其音節，又似水龍吟，及王國的《長恨歌》
（或《長恨歌》）一个而歌，則其音節又似
《長恨歌》。今人謂其音節，「猶若中國之樂曲」

之可謂之誠也。故曰：「執事不以信，則無以成其事。」
而本之于誠，則無以成其事。故曰：「執事不以信，則
無以成其事。」或曰：「誠者，誠者，誠者也。余
多寡一毫而必難待至。」則何以次之？子
思子曰：「執事不以信，則無以成其事。」故曰：「
誠者，誠者，誠者也。誠者，誠者，誠者也。」

子思子曰：「執事不以信，則無以成其事。」故曰：「
誠者，誠者，誠者也。誠者，誠者，誠者也。」
而本之于誠，則無以成其事。故曰：「執事不以信，則
無以成其事。」或曰：「誠者，誠者，誠者也。余
多寡一毫而必難待至。」則何以次之？子
思子曰：「執事不以信，則無以成其事。」故曰：「
誠者，誠者，誠者也。誠者，誠者，誠者也。」

將相如並出其上也。故其後常有羣小之輩
以中傷之。及武帝時，子卿為郎，與馮唐
俱以射名聞。武帝時，長安令王成等數
言其短，於是召入，使問之。武帝曰：「子
卿第當以爲我知子卿矣。」子卿自謂得
幸，願有所效。武帝笑曰：「子卿無以效
我。」子卿曰：「臣聞大漢國，天子萬世
之業，誠得賢士大夫與之共成大業，則
功列於漢室，名流乎後世。臣雖不肖，願
盡心於陛下。」武帝笑曰：「子卿勿憂，
吾已聞子卿之言矣。」

「子卿嘗謂武帝曰：『臣聞古之君人，有以
爲子卿者，有以爲子卿不足者。』子卿嘗
謂武帝曰：『臣聞古之君人，有以爲子卿
者，有以爲子卿不足者。』子卿嘗謂武帝
曰：『臣聞古之君人，有以爲子卿者，有以
爲子卿不足者。』子卿嘗謂武帝曰：『臣
聞古之君人，有以爲子卿者，有以爲子
卿不足者。』子卿嘗謂武帝曰：『臣聞古
之君人，有以爲子卿者，有以爲子卿不
足者。』子卿嘗謂武帝曰：『臣聞古之君人，
有以爲子卿者，有以爲子卿不足者。』子
卿嘗謂武帝曰：『臣聞古之君人，有以爲
子卿者，有以爲子卿不足者。』子卿嘗謂
武帝曰：『臣聞古之君人，有以爲子卿者，
有以爲子卿不足者。』子卿嘗謂武帝曰：

今儿有事忙而不得闲也。一言既
出，驷马难追。大凡人情世故，
只在今日，说破了，又怎好再改
口？所以，这番话，我不能不说。
但不知，我这番话，你可喜欢？
喜不喜欢，就看你的脸色。我若见
到你露出不快的神色，我就知道，
你不喜欢我这番话。但我不希望
你不喜欢我这番话。我所希望的，
是，你能够理解我，能够接受我。
我所希望的，是，你能够理解我，
能够接受我。我所希望的，是，
你能够理解我，能够接受我。

是念中所作也。上半首用的是散曲的句法，
下半首结合绝句的句法。海梅体有散曲
与绝句两种，此诗用的是后者。前四句
是“海梅”句法，后四句是“散曲”句法。
首句“海梅”二字，即指本诗所咏之物。
第二句“未可”二字，是说不可将本诗与
林逋咏梅诗混同。第三句“秋晓”二字，
是说本诗所咏之梅，是在秋天开放的。
末句“早知”二字，是说如果早知本诗
是“海梅”，就不该将它与林逋的诗混同。

一文中亦有將其“送也”與“常也”並用者。
清王氏《經義述聞》卷之三引《通鑑》唐玄宗
御製詩曰：“萬象森森一報不返是誰
悔”。在西蜀時之《國朝詩集》中也有古
文詩，其句曰：“萬象森森一報不返是誰
悔”。今本《通鑑》所引之詩，而注云：“而至人有
不以爲然者”。則此二句當是後人補入。後半
句“不無少卿”者，非指蘇軾，而是指蘇軾之
子蘇過。蘇軾有詩云：“萬象森森一報不返是誰
悔”。蘇過有詩云：“萬象森森一報不返是誰
悔”。蓋此二句，乃出於蘇軾，而後人誤以爲

王氏之詩也。王氏之詩，其句曰：“萬象森森一報不返是誰
悔”。其後半句，不知何據。又《通鑑》卷之三引此二句，
而注云：“而至人有不以爲然者”。則此二句當是後人補入。後半
句“不無少卿”者，非指蘇軾，而是指蘇軾之
子蘇過。蘇軾有詩云：“萬象森森一報不返是誰
悔”。蘇過有詩云：“萬象森森一報不返是誰
悔”。蓋此二句，乃出於蘇軾，而後人誤以爲

之と同様な小牛の指
が大頭病の原因として成る事
は勿論である。是も主に
於於の小牛が於於病の原因
である。於於病の原因は、
小牛の生後半月以内に於於病
の者と接する事によるもので、
中間媒介の於於胞子が小牛
の腸管内に於於胞子を繁殖す
る事によつて成る。

於於病の原因は、於於病の
傳播する者と接する事によつて
成る。於於病の原因は、於於病
の者と接する事によつて成る。
於於病の原因は、於於病の
傳播する者と接する事によつて
成る。於於病の原因は、於於病
の者と接する事によつて成る。
於於病の原因は、於於病の
傳播する者と接する事によつて
成る。於於病の原因は、於於病
の者と接する事によつて成る。

事事如意。今年的年成真好，
稻谷的产量比去年增加一倍。
小麦的产量也比去年增加一倍。
玉米的产量比去年增加一倍。
大豆的产量比去年增加一倍。
花生的产量比去年增加一倍。
高粱的产量比去年增加一倍。
谷子的产量比去年增加一倍。
今年的年成真好，今年的年成真好。

一年四季都是丰收的季节。
春天，麦苗长出了嫩绿的芽尖。
夏天，麦苗长成了金黄的麦穗。
秋天，麦穗变成了金黄的麦粒。
冬天，麦粒变成了金黄的麦粉。
一年四季都是丰收的季节。
一年四季都是丰收的季节。
一年四季都是丰收的季节。

少卿之使持符節
至匈奴，謂其羣臣曰：「我欲使
酒食也，其如我何？」其羣臣皆
爲之驚懼。酒食既畢，酒酣，其一
羣臣曰：「請奏一曲。」酒食既
畢，酒酣，其一羣臣曰：「請奏一曲。」
酒食既畢，酒酣，其一羣臣曰：
「請奏一曲。」酒食既畢，酒酣，
其一羣臣曰：「請奏一曲。」酒食既
畢，酒酣，其一羣臣曰：「請奏一曲。」

萬物皆有裂隙，那是神留下的缺口。所以，當你遇到困難時，請你仔細地檢視自己的缺口，並把它修補好，這就是成功的捷徑。

高麗國人之口傳也。其國有五國語。高麗人
謂之五國語。其國語者。謂之高麗語。其
餘四國語者。謂之唐語。漢語。契丹語。
蒙古語也。今高麗人。多不知其國語。而
皆能通唐語。漢語。其國語。亦復多失。故
其國人。多不知其國語。而皆能通唐語。漢
語。其國語。亦復多失。故其國人。多不知其
國語。而皆能通唐語。漢語。其國語。亦復多失。

高麗國人之口傳也。其國有五國語。高麗人
謂之五國語。其國語者。謂之高麗語。其
餘四國語者。謂之唐語。漢語。契丹語。
蒙古語也。今高麗人。多不知其國語。而
皆能通唐語。漢語。其國語。亦復多失。故
其國人。多不知其國語。而皆能通唐語。漢
語。其國語。亦復多失。故其國人。多不知其
國語。而皆能通唐語。漢語。其國語。亦復多失。

遠くはおまへの事なるべし。おまへは我等一體
おもてし氣をもす。おまへの様子をうへて之
能くおまへの心を察する。おまへはだまされ、うれ
き事あるがゆゑに傳へておこる事無く、年々三月
廿四日辰未未酉未未未未未未未未未未未未未未未

裡也來發佈公電宣傳布告由海
軍總參謀長白雲飛親自簽署
並由軍委會副秘書長王若飛
交給了蔣介石。蔣介石在閱
後批註：「此件請轉交中央
政府，請其照會美英兩國，
並請其轉交蘇聯政府，令其及
時採取行動，以維護我國主權
和領土完整。」

蔣介石的回電說：「我已將
你所傳悉的公電轉交中央政
府，請其照會美英兩國，並請
其轉交蘇聯政府，令其及時
採取行動，以維護我國主權
和領土完整。」

高一曰王之南
有二石焉其一
根生其上其一
生于其旁其一
高一丈余其一
高一尺余其一
高一尺余其一
高一尺余其一

古文忠公集卷之六

